

## 小学校高学年の部

特選 自由図書部門

「想像力をふくらませる大切さ」



大野町立南小学校五年

青木 桜和

「わあこの絵とってもかわいい。」  
私は、油絵でえがかれたこの絵本にきょう味をもち手にとった。  
「ブルーノ」見た目はかわいらしい絵本だけど、内容を読み終わった後はとてもさみしく悲しい気持ちになってしまった。それはなぜか。この本にこめられたメッセージがとても強く感じ悲しい物語に引きこまれてしまったからだ。

物語の主人公は、カルタスと王様だ。初めにカルタス側から読み、次に王様側からそれぞれ気持ちに分かる本のしかけになっている。平和な国にあらしがおそい、王様は必死で国民を助けようとするけれどおいつかず、何も知らないカルタスや国民から大きな非難を浴びることになった。村人の批判が大きくなり、ついには王様はしよけいされてしまうという話だ。カルタスはカルタスの気持ちがあるし、王様は王様の思いがあるのだが、コミュニケーションをとることなくおたがいになれなかった。なぜ、このような悲しいことになってしまったのだろうと考えた。もし、相手の立ち場に立って耳をかたむけられたら、けんかや争い事は起こらない。一度争いが始まってしまえば、かん単には火は消せない。それぞれの意見はあるけれど、それを暴力で解決することは自分勝手に弱い心があるのだと感じた。物事の真実は一つだけとおたがいの理由がある。どちらの気持ちも分かるだけ苦しい気持ちになった。

五年生のクラスでは学級会での意見がわれることがある。その時は先ず、「○○さんの意見を聞きましよう。」次に、「○○さんの意見はどうですか。」という具合に、必ずおたがいの気持ちを聞いてから、物事に折り合いをつけて解決している。さらには、「○○さんはこう言ったけれど、私はこう思う。」という反対意見や、「わたしは、初めはこう思ったけれど、○○さんの意見を聞いてやっぱり同じように思った。」など、発てんしていくこともあるからおもしろい。このように、一つの出来事から人それぞれ全くちがう見方や考え方がある。相手の立場に立って物事を多面的にとらえられることが大切だと思う。なぜかという人話に耳をかたむけると、知らなかったことや今まで理解できなかったことがなっとくできることもあるからだ。平和というのは、おたがいに歩みよることから始まると思う。こうであるべきや、○○でなければならぬという固定かん念にとらわれず、じゅうなんな心を持ちたい。

この本を読んで、自信をもって自主的に意見を伝えられるようになりたいと思った。そして、相手の気持ちを想像する思いやりが必要であることを学ぶことができ、とても勉強になった。これからの生活で役立てて実せんしていききたいと思う。

FUKASE 作  
『BLUE NO』

福音館書店

### 【講評】

意見が食い違う時にどうするといいか、自分事として素直に深く考えています。自分の生活経験を重ねながら、相手の立場に立って「固定観念にとらわれず柔軟な心をもつこと」に気付くことができました。